

会 議 録

会 議 名	佐久市川村吾蔵記念館協議会
日 時	6月1日（水）午後2時から3時
場 所	佐久市川村吾蔵記念館多目的室
出 席 者	委員 5名
	事務局 4名

内 容

1 開会

2 あいさつ 会長、文化振興課課長、川村吾蔵記念館長

3 協議事項

(1) 平成3年度事業報告について

別添報告書のとおり事務局より説明。質疑は以下のとおり。

《質疑応答》

委員：昨年度、寄贈いただいた内容を詳しく教えてください。

事務局：川村吾蔵のお孫様よりの寄贈がありました。書簡が21点と感謝状等が4点、海外旅券が1点、在留証明書が1点。書簡の中には吾蔵が日本に戻った時に親交があった藤田嗣治直筆の、後援会おことわりの内容のものや、旧宮家の胸像制作時に連絡を受けた内容のもの。直筆で、島崎藤村がアメリカに立ち寄った際、食事を共にした感謝の手紙などがありました。徳富蘇峰記念館の資料に戦時中吾蔵から受け取った手紙の存在は示されていたのですが、今回は吾蔵が当時の文人や作家と交流があったという吾蔵側の裏付け資料になります。それから、吾蔵が日本の陸・海軍へ送った恤兵金に対する各大臣からの感謝状、第一次世界大戦中に吾蔵がフランスとイギリスを往復した時のパスポートを寄贈いただきました。

(2) 令和4年度実施予定事業について

別添実施予定事業のとおり事務局より説明。質疑は以下のとおり。

《質疑応答》

委員：5月にアメリカの美術館と川村吾蔵に関してどのようなやり取りについて具体的に教えていただけますか。

事務局：アメリカのプリンストンにあるモーベンミュージアムから連絡があり、すぐ

隣にある戦勝記念碑が 1992 年に建立されてから今年で 100 周年になるため、記念式典を行いたいとのことでした。そこで、あちらの学芸員が英訳されている飯沼信子さんの本『川村吾蔵の生涯』を調べて、作者であるマクモニスと共に制作にかかわった川村吾蔵について当館に問い合わせが来ました。当館では、1915 年フランス留学時代にマクモニスと粘土で原型を作ったと思われる写真と、その輪郭的なものが描いてあるスケッチが所蔵してあります。それと、アメリカで制作された当時の写真もあります。そこで、そのスケッチと写真、同時代に吾蔵がアメリカの工房で作成している様子の分かる写真を計 8 点ほど送り協力いたしました。川村吾蔵記念館でもバックアップさせていただいたところではありますが、アメリカで使う資料はデータで提供いただきたいと伝えてあります。

委員：向こうで展示会をするのですか。

事務局：ちょうど 100 周年記念で戦勝記念碑のことについてプロジェクターで作品を映像で流すようです。吾蔵の生涯についても少し触れるとの事です。今回展示した資料や映像は、こちらにも知らせていただくように伝えてあります。また、当館にはアメリカ時代の白黒のご本人と、制作当時撮った写真はありますが、他の記録はありません。

委員：せっかくの事なのこれを機に際盛り上げていただきたいと思います。

お貸しするものは、いつ送るのですか。

事務局：この館にある写真とスケッチをデジタルカメラで撮って、デジタルデータを先日メールで送らせていただきました。モーベンミュージアムは映像資料が欲しいとのことでした。

委員：本来なら、こちらも同時開催ということでも良かった。規模は違っても、こちらでもそれにまつわる展示会をするとか、アイデアが出てくると思います。

事務局：時間的に同時開催ということは難しいですが、海外で行った様子を SNS において PR できればと考えております。

委員：佐久市もエストニアとやりとりしている。この先市民交流することだってできるのではないか。是非、頑張ってやって欲しいです。

事務局：本年度は県立美術館が交流展ということで、佐久市立近代美術館に川村吾蔵のブロンズ像を 3 点ほど貸し出す予定でおります。これを機にモーベンミュージアムとも交流が図れればと良いと思います。

委員：友の会展の作品展は、友の会のメンバーの皆さんが出展されるのですか。

事務局：そのとおりです。以前に講座で作成したものや、絵画、彫刻、写真などの他に、俳句、工芸的な小物など、自身の作品の持ち寄りの会にしようと考えております。

委員：「龍岡城址を描こう」というのは外に出かけて描くというものですか。

事務局：半日の企画ということで考えると、ここから見える範囲のものに限定されるので、いくつかの場所の写真を用意しながらそれを基に気楽にスケッチしてみようということを考えています。

委員：川村吾蔵氏の名前を冠した美術館でありますけれど、川村氏の作品を展示するだけでなく、記念館の設立の趣旨にも書かれていましたが、広く市民の皆さんの創作的活動の集いの場になるような工夫がされているのだと感じました。利用者数はコロナのこともあり伸び悩んでいることもありますが、数の多少だけではなく来館していただいた方、また、広く地域の皆さんの心根に根差すような活動を今後もしていただければと思います。学校と記念館の活動をどうつなげていくかもひとつの役割だと考えていますが、昨年度は学校の皆さんはどのくらい来ましたか

事務局：小学校3校ほどに行事と併せて観覧していただいています。

委員：佐久市外の少し離れた小学校が遠足とかはあるのでしょうか。

事務局：昨年度はありませんが、数年前にはいくつかあります。

委員：小学校の学習の図画工作にも鑑賞というものがあるので、立地を生かせれば観賞の学習材料として訪問させていただくこともあるのかなと思います。

事務局：ご意見のような活動も積極的に行いたいと思います。

やらせていただくとすると、子供たちの作品は、学校内では皆様に見せられる時間は限られてしまう。記念館は休日、祝日に開館していますので、ここに展示すれば家族や地域の方が鑑賞する時間が拡大できる気がします。

また、学校以外の関係で、多目的室を利用したいと申し出があり、ここで教室の発表会をしたいという話がきています。当然有料にはなりますが、このように小学校のみならずサークル活動団体の方など幅広く記念館へ足を運んでいただければよい事業展開していきたいと考えております。

委員：近代美術館の視聴覚室も一般の方に貸してます。そういう形で空きのところを一般の方に貸すという事もあるのではないか。工芸的なものにはこのスペースは使いやすと思うので。光の問題や広さで絵画よりいいと思われれます。

(3) 令和5年度実施計画事業

事務局より説明

令和5年度事業につきましては、先ほど説明しました令和4年度の事業が基本となりますが、郷土の作家展や未来の巨匠展などの企画展開催のほかワークショップを中心に計画立てしていく予定であります。企画展やワークショップなどの内容や新たな事業につきまして、ご提案、ご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

《質疑応答》

委員：ワークショップの講師というのはどういった決め方をしているのですか。

事務局：押花など地元で教えている方や、現職の美術の教師の方をお願いしています。それ以外は、館長が講師となり実施しております。

委員：同じ方が毎年やっていると参加者も同じ感じになってしまうので、企画展を決める段階で企画展の画家にデッサンを教えてもらうワークショップにするなど、企画展を絡めるとバリエーションが出てくるので毎年同じことをやっているという感じが出なくなるのではないのでしょうか。なので、これから決めるときには絵画とか立体作品などでは企画展と絡めるのもいいかと思いました。

事務局：委員さんのご意見を踏まえまして、令和5年度の企画展とワークショップにつきましては、バリエーション豊富に工夫しながら計画していきたいと思っております。また、先ほどのご意見のありました、寄贈いただいたものにつきましても、特別展示ということも視野に入れ計画を立てていきたいと考えていきます。